

2020年2月13日

各位

旭化成建材株式会社

— 「住まいの温熱環境の実態と満足度（脱衣室・浴室編）」調査結果について—

#### 4割の人が冬季の脱衣室で寒さを感じている

脱衣室で寒さを感じているのに、寒さ対策をしていない人は7割を超える。

旭化成建材株式会社（本社：東京都千代田区、社長：堺 正光、以下「旭化成建材」）快適空間研究所\*1は、できるだけ冷暖房設備にたよらない「あたたかい空間」での“心と体と懐があたたかくなるいきいきとした暮らし”を「あたたかい暮らし」と定め、その空間の普及のために情報発信、啓発活動を続けてきました。その活動の一環である「あたたかい暮らし研究会」\*2では、首都大学東京 建築学域 須永研究室と共同で、「住まいの温熱環境の実態と満足度」調査を2016年から実施しています。

近年、日本では、冬季、家庭での入浴中の死亡事故は年々増加傾向にあり、「家」や「居住施設」の「浴槽」での溺死者数は平成30年に5,072人\*3と、交通事故死亡者数3,532人\*4を大きく上回っています。また、入浴中に「溺死」だけでなく「病死」も含めてヒートショックに関連した原因で亡くなったと推計される人は約17,000人で、そのうち高齢者が14,000人と考えられています（2011年調査\*5）。こうした入浴中の死亡事故の多くは、室温の高い居室から室温の低い脱衣室・浴室、そして浴槽内へと移動する時にさらされる温度変化によって、血圧が上下に急変動することで引き起こされるものと考えられています。特に、脱衣室・浴室は、一般的に北側に配置されることが多く、住宅内のスペースの中でも特に寒冷的な環境であるため、ヒートショックを誘発する危険性が高くなっています。今後、高齢人口が増加する日本において、このような事故を防ぐために、脱衣室・浴室の温熱環境の改善や安全な入浴方法の普及は喫緊の課題です。

このたび、「あたたかい暮らし研究会」では、冬季の脱衣室・浴室での寒さの感じ方や体調等の実態を把握するために調査を実施しましたので、その結果をご報告いたします。

## I. 調査結果のトピックス

## 1. 脱衣室での寒さの感じ方

- (1) 冬季、脱衣室で寒さを感じている人の割合は、**40.9%**。
- (2) そのうち、脱衣室の寒さ対策をしていない人は**7割**を超える。
- (3) 脱衣室で寒さを感じているのに、脱衣室の寒さ対策をしない理由の上位3つは、「寒くても我慢できるから」(**35.6%**)、「短時間しか滞在しないので、費用がもったいないから」(**29.9%**)、「対策方法がわからないから」(**20.7%**)。
- (4) 湯船につかる時間は、脱衣室で寒さを感じている人の平均が**12.5分**と、寒さを感じていない人の平均**10.8分**よりも長い。
- (5) 寒くて脱衣室・浴室で不調を感じたことのある割合は、脱衣室で寒さを感じている人は**14.9%**と、脱衣室で寒さを感じていない人**8.1%**に対して、**約2倍**。

## 2. 年代による違いについて

- (1) 入浴中の死亡事故のリスクが高いとされる60代・70代では、脱衣室で寒さ対策を実施している人が**45.0%**と、他の年代よりも高い。
- (2) 60代・70代で、脱衣室で寒さを感じていると回答した人の割合は**22.6%**と、他の年代の半分以下。

## 3. 住まいの温熱性能別の違いについて

- (1) 脱衣室で寒さを感じている人の割合は、「温熱性能が低い住まいに住んでいる人」は**51.9%**と半数を超えており、「温熱性能が高い住まいに住んでいる人」よりも約**15%**高い。
- (2) 脱衣室・浴室で寒さによる不調を感じたことのある割合は、「温熱性能が低い住まいに住んでいる人」が**17.2%**で、「温熱性能が高い住まいに住んでいる人」**5.0%**に対して、**3倍以上**となった。

## II. 調査概要

1. 調査目的：住まいの温熱環境の実態と、居住者の温熱環境に関する意識、行動、ライフスタイルや価値観を調査することで、社会への情報発信および断熱事業におけるマーケティング活動の一助とする。
2. 調査時期：2018年12月4日～10日
3. 調査対象：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県  
戸建持家居住者 20代～70代 男女（回答者数：295名）

※回答者数は、回答者の性・年代・エリア別データを実際の人口構成比で、データに重み付けをして再集計する、ウェイトバック集計を行い補正してある。

4. 調査方法：WEBアンケート調査

※温熱性能別の比較について

アンケートで住宅の断熱性能を回答してもらうのは難しいため、本調査では、住まいの温熱性能別の比較をするために、窓ガラスの種類について選択してもらい、その結果を分類し解析している。温熱性能「低」：シングルガラス、温熱性能「中」：ペアガラス、温熱性能「高」：Low-Eペアガラスまたはトリプルガラスと回答した人。なお、この分類は、実際の住宅全体の断熱性能と高い相関があることが確認されています。

\*参考：食野遼 須永修通 大塚弘樹；住宅の断熱性能とライフスタイルの関係に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）、pp1145-1146、2016.8

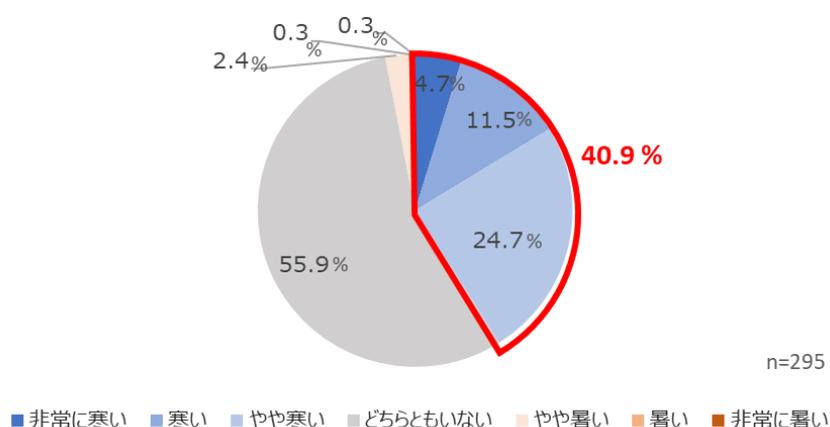
## III. 調査結果

### 1. 脱衣室での寒さの感じ方

#### （1）脱衣室で寒さを感じている人の割合

脱衣室が「非常に寒い」「寒い」「やや寒い」と回答した人（以下、「脱衣室で寒さを感じている人」という。）の割合は40.9%でした。

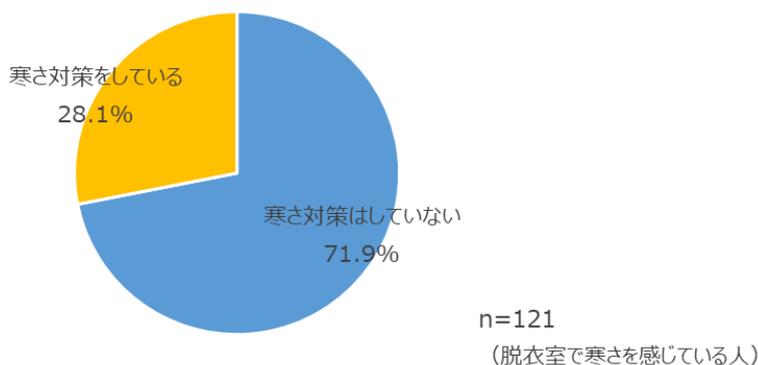
冬季の入浴前の脱衣室の温冷感（暑さ寒さの感じ方）



(2) 寒さ対策実施の有無

脱衣室で寒さを感じている人のうち、脱衣室で寒さ対策をしていない人は71.9%と7割を超えていました。

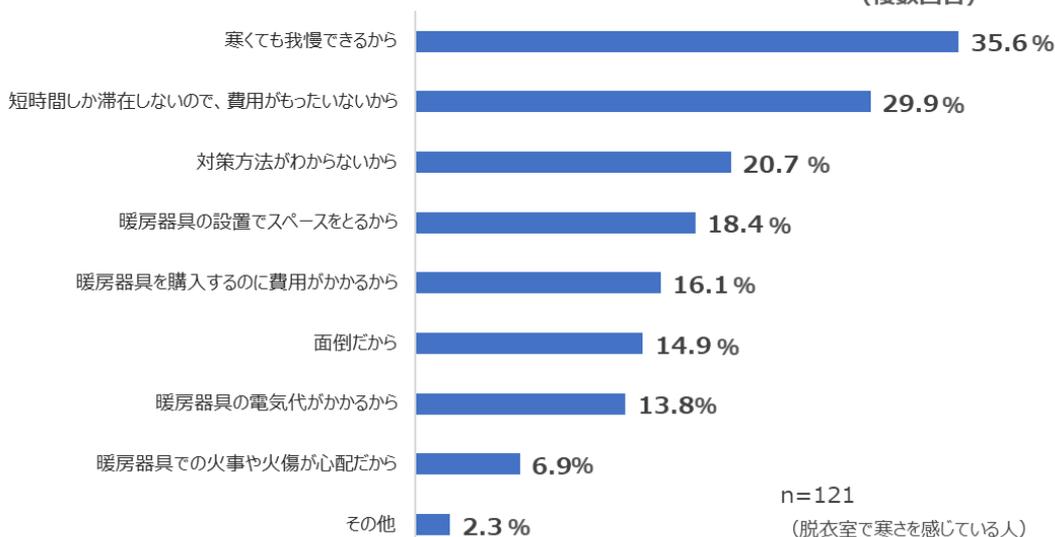
冬の脱衣室に、寒さ対策（暖房器具の使用やその他行為）はしていますか  
 〈脱衣室で寒さを感じている人〉



(3) 寒さ対策しない理由

また、脱衣室で寒さを感じている人の寒さ対策をしない理由で上位に挙げたのは、「寒くても我慢できるから」35.6%、「短時間しか滞在しないので、費用がもったいないから」29.9%、「対策方法がわからないから」20.7%、「暖房器具の設置でスペースをとるから」18.4%でした。費用や対策方法がわからない、設置スペースを理由に挙げている人たちに対して、簡便にできる寒さ対策を周知していくことが必要です。

脱衣室で寒さを感じている人の、脱衣室で寒さ対策をしない理由  
 (複数回答)



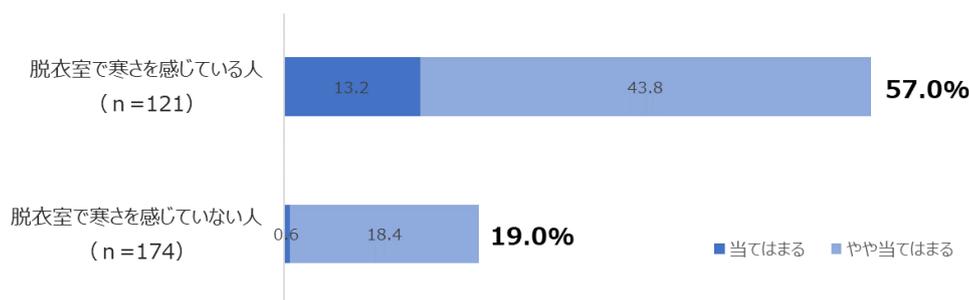
(4) 湯船につかる時間について

湯船につかる時間は、脱衣室で寒さを感じている人の平均は **12.5分**と、脱衣室で寒さを感じていない人の平均 **10.8分**よりも長くなっています。また、脱衣室で寒さを感じている人のうち **57.0%**の人が「脱衣室や浴室が寒いので、湯船に長時間浸かってしまう」と回答しています。入浴中の死亡事故を防ぐための入浴時間は**約10分**<sup>\*3</sup>と言われてはいますが、脱衣室で寒く感じる人ほど、浴槽に長く浸かってしまう傾向にあるということがわかりました。

冬の入浴時、どのくらい湯船（浴槽）につかりますか（平均）



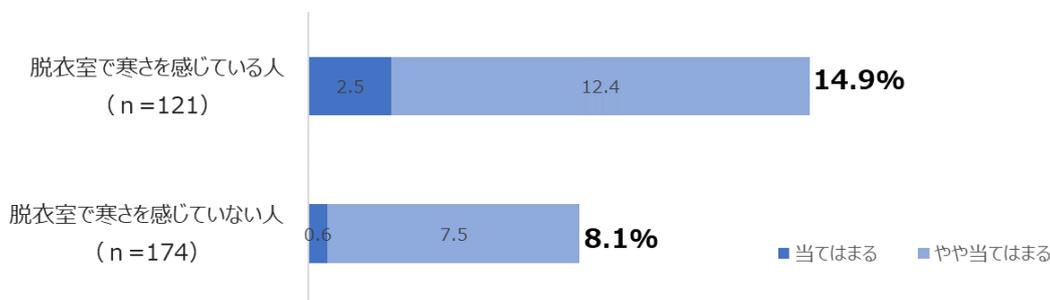
冬脱衣室や浴室が寒いので、湯船に長時間浸かってしまう



(5) 脱衣室・浴室で身体の不調を感じるかどうか

「冬寒いので、脱衣室・浴室で身体の不調を感じることもある」（「当てはまる」「やや当てはまる」の合計）と回答したのは、脱衣室で寒さを感じている人は **14.9%**で、脱衣室で寒さを感じていない人の割合 **8.1%**の**約2倍**であることがわかりました。

冬寒いので、脱衣室・浴室で身体の不調を感じることもある

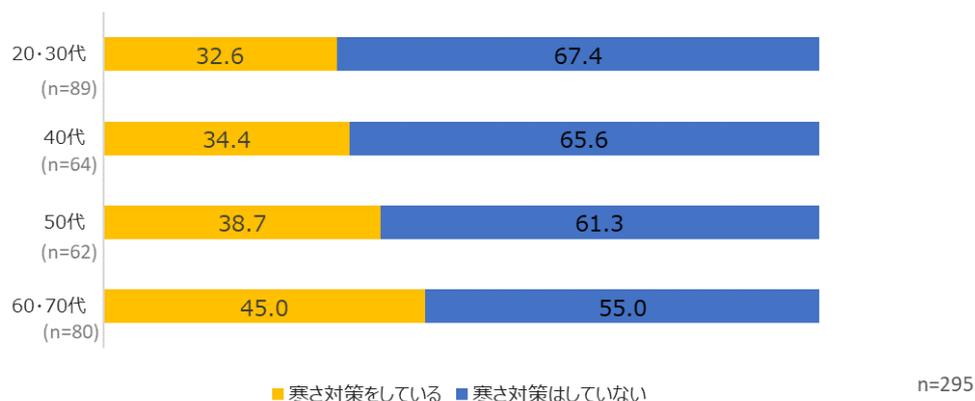


## 2. 年代による違いについて

### (1) 高齢者の寒さ対策の実施について

脱衣室で寒さ対策を実施している割合は、年代が高いほど大きくなり、入浴中の死亡事故の多くを占めている 60 代・70 代で 45.0%になっています。国や自治体等により入浴時の死亡事故を防止するための対策が呼びかけられており、それが一定の効果を上げていることが伺えます。しかし、依然として半数以上の人は対策を実施していないので、引き続き一層の啓発活動が必要です。

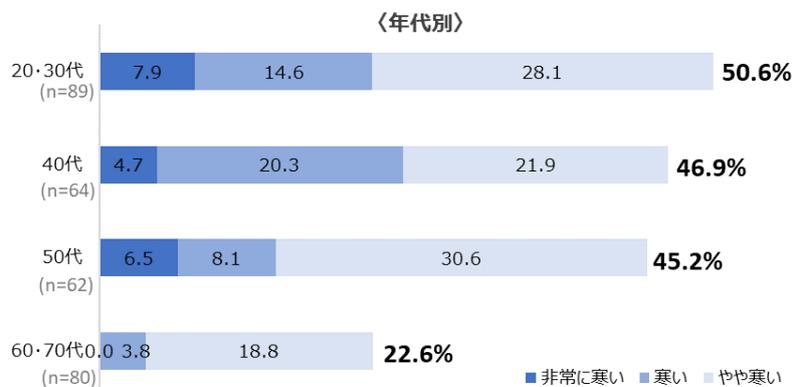
冬の脱衣室に、寒さ対策（暖房器具の使用やその他行為）はしていますか  
〈年代別〉



### (2) 高齢者の寒さの感じ方

脱衣室で寒さを感じる人の割合は、60 代、70 代の人には 22.6%と、他の年代の半分以下になっていました。他の年代よりも寒さ対策をしている割合が高かったことが一因として推察されます。しかし、一般的に、高齢者は加齢にともない基礎代謝量が低下することで\*6、寒さの影響を受けやすくなります。そのため、高齢者は脱衣室の寒さが危険であることを十分に認識し、脱衣室の室温を高める対策をすることがとても重要です。

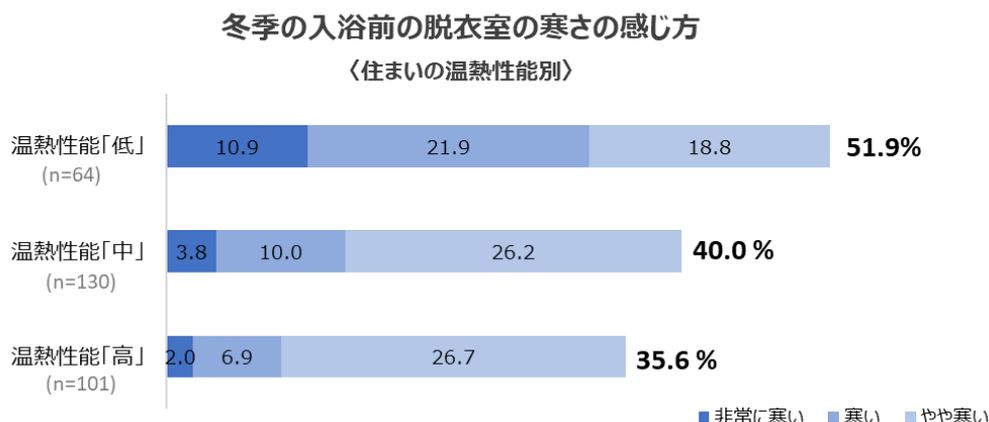
冬季の入浴前の脱衣室の寒さの感じ方



### 3. 住まいの温熱性能別の違いについて

#### (1) 脱衣室の寒さの感じ方

住まいの温熱性能別に、脱衣室の寒さの感じ方について比較すると、「温熱性能が低い住まいに住んでいる人」は51.9%と半数を超えており、「温熱性能が高い住まいに住んでいる人」の35.6%よりも約15%も高くなっています。



#### (2) 脱衣室・浴室で身体の不調を感じるかどうか

住まいの温熱性能別に、「冬寒いので、脱衣室・浴室で身体の不調を感じることもある」割合を比較すると、「温熱性能が低い住まいに住んでいる人」は17.2%と、その割合は「温熱性能が高い住まいに住んでいる人」5.0%の3倍以上となっています。

以上のことより、「温熱性能の高い住まいに住んでいる人」の方が、ヒートショックの危険性が低減された、安心・安全な暮らしを手に入れている可能性があることが推察されます。

**冬寒いので、脱衣室・浴室で身体の不調を感じることもある**  
〈住まいの温熱性能別〉



#### IV. まとめ

今回の調査からは、①脱衣室で寒さを感じている人が **40.9%**。脱衣室で寒さを感じているのに、脱衣室の寒さ対策をしていない人は **7割**を超えること。②「寒くても我慢できるから」「費用がもったいないから」「対策方法がわからないから」などが寒さ対策をしない理由として挙げたこと。③リスクの高い高齢者で脱衣室の寒さ対策をしている人は **45.0%**と他の年代よりも高いが、依然として半数以下であるということ。④「温熱性能の高い住まいに住んでいる人」ほど、脱衣室で寒さを感じにくく、不調も感じていないということ、がわかりました。

これらの結果から、私たちも、脱衣室・浴室での事故を防ぐために「①脱衣室の温熱環境の危険度を正しく把握するために、体感に頼らず、脱衣室にも温湿度計を置いてこまめに室温を確認すること」「②脱衣室や浴室が寒くても我慢しないで、室温を高める対策を実施すること。具体的には、『入浴前にシャワーで湯をかけて床面や壁面を暖める』、『入浴前にお風呂の蓋を開けておき湯気を充満させる』、『小型サイズの暖房器具を設置すること』などの簡単にできる対策方法を実施すること」等を、ホームページなどを通して、幅広く情報提供していく予定です。

また、今回の調査では、「温熱性能の高い住まいに住んでいる人ほど、冬季の脱衣室・浴室で不調を感じることが少なく、ヒートショックの危険性が低減された安心・安全な暮らしを手に入れている可能性がある」ことがわかりましたので、引き続き、「温熱性能の高い住まい」での「あたたかい暮らし」の価値を発見し、社会に伝える活動を継続していきたいと考えています。

\* 1 快適空間研究所

- 1) 名称：旭化成建材株式会社 快適空間研究所
- 2) 所在地：東京都千代田区神田神保町1丁目105番地 神保町三井ビルディング
- 3) 設立：2014年4月
- 4) 所長：白石 真二
- 5) 目的：快適な空間を実現するための情報収集と分析及びそれらの結果を踏まえたコンセプト開発、マーケティング活動。
  - ① 一戸建の温熱環境と生活実態の把握による居住空間での温熱環境ニーズの発掘
  - ② 活動方針に共感いただける社外の関連企業、大学等の研究機関、行政、生活者等との共創
  - ③ 研究成果の社会や生活者への情報発信と断熱材事業へのフィードバック

\* 2 あたたかい暮らし研究会

- 1) 発足：2015年1月 快適空間研究所内に発足
- 2) 主な活動：あたたかく生き生きと暮らすための居住空間とライフスタイルの研究
  - ① 調査活動：住まいの温熱環境や生活者の暮らしに関するアンケート・訪問・実測調査等の実施
  - ② 啓発活動：生活者の温熱環境に関するリテラシー向上のためのセミナー、ワークショップ等の実施
  - ③ 情報発信活動：生活者に向けたHP、冊子等での情報発信など
- 3) 主なメンバー：  
旭化成建材株式会社 快適空間研究所、株式会社旭リサーチセンター ハビトゥス研究所、  
首都大学東京 建築学域 須永研究室、駒沢女子大学 住空間デザイン学類 橘田特任教授

\* 3

(出典) 消費者庁ニュースリリース「みんなで防ごう高齢者の事故！ー冬はお餅の窒息事故、入浴中の溺水事故が起きやすい季節ですー」  
(令和元年12月18日)

\* 4

(出典) 警察庁 報道発表資料 「平成30年中の交通事故死者数について」 <https://www.npa.go.jp/news/release/2019/20190104jiko.html>

\* 5

(出典) 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 <https://www.tmghig.jp/research/release/2013/1211.html>

\* 6

(出典) 厚生労働省 e-ヘルスネット[情報提供] <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/>

以上

【本件に関するお問い合わせ先】  
旭化成株式会社 広報室（関塚、片山、阿曾村）  
TEL 03-6699-3008